

最初から漢字を習った子どもと、“かな”から始めた子どもとでは、読書のスピードが違うことも発見しました。もちろんこれは個人差もありますから、すべてがそうだと一概には決めつけられませんが、かなで習った子で、かなり読書の早い子どもでも、漢字から学習した子には全然かなわないのです。

息子が子どもの頃本を読んでいるときに、試しに息子の後ろから私も読んでみたら、まだ一ページの半分くらいしか読み終えないうちにページを繰っていました。私もスピードをあげて追いつこうとしますが、次のページも、また次も同じでした。

それで、こんなに速く読んで本当に中身が理解できているのかな、と思って内容について質問をしてみました。すると、きちんと答えることができ、内容も理解していました。「速く読みとること＝理解力を高めること」と気づいたのです。

こんなこともありました。息子が幼稚園のころ『ロビンフットの冒険』という絵本を買って与えたことがあります。その中に、ロビンフッドが捕まって縛られている挿絵がありましたが、息子は、「お父さん、この絵は追っている」と言うのです。

文章の中では、ロビンフッドは騙されて角笛を奪われたのに、この絵のロビンフッドの腰に角笛がブラ下がっているのはおかしい、と。幼稚園の子どもがこんな指摘をするのです。ただ字を追って読んでいるだけでなく、内容もちゃんと理解していることがわかりました。

私たちは、“かな”から入っているので、速読術でも習わない限り、速くは読めません。しかし、初めから漢字で習えば、こういう能力が自然に身につくのです。最初についた習慣というのは、後々まで身について離れないのです。

私は息子に対して、幼稚園の間に小学校で習う漢字が読んで意味がわかるようにさせました。幼稚園のうちから小学校五、六年生の本がスラスラ読めたのです。

小学校に入ったときに、百科辞典を買ってやったら、たとえば、外で遊んで帰って来てから何をしているのかと思えば、今までに見たことのない草花があったので調べているのです。

漢字を読む力さえあれば、小学校の一年生でも百科辞典でどんどん調べるのです。そして新しい知識をどんどん吸収するのです。